

# 佑啓

い け う ゆ

発 行 者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

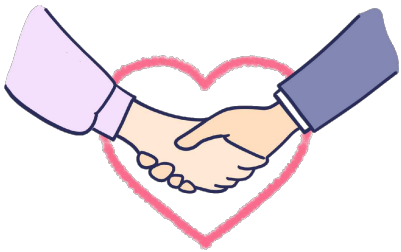
FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

## 毎日の小さなことを大切に

### 佐久間 水月

皆さん、こんにちは。弁護士の佐久間水月（さくま みづき）です。今期より、社会福祉法人佑啓会の監事をさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。平成三十一年（二〇一九年）四月から千葉県知的障害者福祉協会の監事も仰せつかっておりますので、いろいろなところで皆さんと「つながり」があり、嬉しく思います。



この場をお借りしまして、改めて自己紹介をさせていただければ幸いです。私は、平成十六年（二〇〇四年）十月に弁護士になり、今年で丸二〇年目を迎えました。また、平成二〇年（二〇〇八年）十月に拠点（所属会）を東京から

千葉に移して独立してから九十六年目となります。民事裁判や家事調停・刑事事件など通常の弁護士業務と並行しつつ、平成二十四年（二〇一二年）十月の障害者虐待防止法施行のころから、虐待防止・権利擁護の研修でお話をさせていただくようになりました。その後、障害者差別解消法の研修会にもお声掛けいただいています。年間、三十五本から四〇本くらい研修会に出ています。研修の繁忙期は、九月十月十一月、一月二月です。また、研究会などでネットワークが広がり、障害者基幹相談支援センター、相談支援事業所、地域包括支援センター、社会福祉協議会等を通じて、困難緊急案件の対応要請があるため、日々格闘しています。最近では、施設、医療機関、リハビリセンター、就労関係のセンター、グループホームに向くことも増えてきています。どこに行っても、関係者の皆さんにはよくしていただき、心から御礼を申し上げます。そして、利用者さんたちに「もみくちゃ」にされながら、本場に「格闘」という言葉がぴったり。おそらく私は強運と強

縁の持ち主で、こうした皆さんの支えがあつて、何事も明るく乗り越えてくることができました。本当にありがとうございます。



時々こっそり旅行！

こんなふう元気いっぱい、少々子どもっぽいワタシですが、「あのテキストは、けしからん」と呆れる方もいらっしゃるでしょうし、「あの気さくな感じがいいよ」と寛大に受け止めてくださる方もいらっしゃるでしょう。ワタシの原点は何か、自分自身のことを振り返ってみると、学生時代に福祉ボランティアをしていた経験が今になって活かしているのかもしれない。まだ移動支援の制度がない平成初期の時代に、障がいがある方と一緒に話したりご飯を食べたりお出掛けをしていたこともあつて、障がいのある方と接するときも、「一緒に何かをやる」という感覚でいるため、弁護士として「法律の仕事モード・支援オラ」は薄いのかもしれません。実際に真面目に困難案件対応をしているときでも、軽度障がいの利用者さんは、しっかり私を観察していて鋭い指摘をします。「さあ次回の約束を決めよう」という終盤には、なぜか、私のほうが、

ご本人にいろいろな心配され助けられ励まされています。「傘を忘れるな」「バスに乗り遅れるよ」「ほら、転ばないように」などなど。いつでもどこでどんなふうに、ドジがばれてしまったのでしょうか（笑）。「大丈夫か？」と言われるようでは、もう、どちらが支援者かわかりませんね。でも、私は、決してめげません。正直、かなりズレたご親切なお世話であつても（笑）、利用者さんの気持ちをしっかりと受け止め、私の面倒をとことん見てもらうつもりです。また、時には利用者さんと喧嘩して、私が悔しくて悲しくて泣いたこともありました。思い出し笑いではなく、「思ひ出し怒り」もしたことがあります。ですが、どのエピソードも、今では私の自慢話になっています。このような様々な楽しくも痛いかけがえのない経験が今の自分の中に生きていて、こんなワタシが作られたしまったようですね。そんなこんなで、なんとかやってこれたのですから、この先も自分を信じて前に進みたい、まだまだやれる、そんな気がしています。



さて、せっかくの機会ですから、私がいつも大切にしていることとして、人権や権利の意義をお伝え

したいと思います。人権・権利と言うと、難しく聞こえるかもしれませんが、シンプルに言えば、「大切にされる権利」「自分自身を大切にする権利」は、誰にでもある、このように一人ひとりが大切だからこそ、お互いを認め合うことが大事ということ。声の大きい人や多数派が優先されがちですが、まずはお互いに敬意を払うこと、自分の意思を持つていいこと・意思を表明できること、イヤなこと、イヤだと言つてもいいんだということを、根本的な理念として再認識する必要があります。

もちろん支援の理念や理論、法律や制度はそれ自体大事なことです。しかし、どんなに素晴らしい理念を掲げて、また、新しく立派な法律や制度ができて、その理念を現場で実践できなければ、絵に描いた餅です。とにかく実践こそ大事。理念があるならば、それを日常生活で実際に活かさなければなりません。そして、実践の中身を言語化して理念に立ち返るように、意識的に理念と実践をリンクさせることが必要です。理念と実践がリンクしていれば、我々は自ら考えて動くことができるようになるはず。日々実践、普段の努力と不断の努力を目指していきましょう。

そろそろ終盤に差し掛かってきました。秋のある日のエピソードをご紹介します。締めくくりたいと思います。カレンダー好きな利用者さんたちと、「明日は何の日？」「秋分の日はお彼岸！」「お彼岸は何をする日ですか？」という感じで、祝日談義が始まりました。A男さんは「お墓参り」「お花をあげる」と言い、そつと手を

あわせて頭をペコリと下げました。一方、B子さんは「おはぎ、食べる」と笑顔で言っていました。本当に人それぞれです。ちなみに、春分の日、桜を愛でる派とぼたもち・団子派に分かれましたが、私はやはり「花より団子」です。お墓参りの件は、ご先祖様やご家族を慕う優しい気持ちを感じられました。利用者さんの経験があり、それに共感できたからこそ、こんなやり取りができたのです。経験つて、本当に大事ですね。

このように自分を知り自分の好きなものを探して世界を広げられるようなコミュニケーションを利用者さんと一緒に楽しめたら、私もとても嬉しいのです。そういう意味では、毎日の小さなことを大切にできるかどうか、日常の支援は、想像力と創造力がためられるわくわくする仕事だと思っています。笑顔、挨拶、握手、拍手を含め、日々のコミュニケーションの中で、利用者さんの意思を引き出したり、利用者さんの通訳になったり、お互いに歩み寄るためのブリッジを架けて、つなぐこと、相互理解を深めていきたいです。

おしゃべり大好きなまま、素敵な出会いと新しい発見を信じて、今日からまた頑張ります。こんなワタシですが、皆さん、今後ともよろしくお願ひいたします。

（社会福祉法人佑啓会 監事）



